

第48回全国公立学校教頭会研究大会参加報告

標記大会が、山形盆地中央に位置する山形市総合スポーツセンターを中心に、8月2～4日の日程で行われた。本県からの参加者は19名、地元山梨で行われる「関東甲信越研究大会」を3ヶ月後に控え、全員が、この大会の成果を十分に生かしていこうという強い意気込みで臨んだ。

1日目午前のレセプションで子どもたちによる郷土文化紹介を心一杯に堪能し、地域に密着した子育ての素晴らしさを強く感じた。その感動と、午後のシンポジウムで片桐教授が柔らかく語った「参加者自身が、自分をデザインしていくことが大切ですね。」という言葉が胸に、2日目の分科会に臨んだ。

私が参加した分科会は、東山研究で日常行っている研究内容と同じ「子どもの発達に関する課題」の第2分科会だった。会議は、岩手県、北海道、そして地元山形県よりの提言を中心に進められた。各提言毎に質疑応答・グループ討議・代表グループ発表を行い、最後に助言者がまとめるという形式であったが、提言数が多く、もう少し突っ込んだグループ討議がしたかったというのが正直な感想である。ともあれ、よく整理・工夫された発表のうえ、グループ討議では全国各地からの参加者が、それぞれのお国なまりを覗かせながら興味深い話を聞かせてくださるので、本当におもしろく充実した時間であった。このことは、8人という少人数での討議故と受け止め、11月の「参加型山梨関プロ」への期待感も高まった。

討議の内容はおよそ次のようなものであった。はじめに岩手県の提言では、教頭のかかわりとして「つなげる」という視点がさかんに討議された。また、地域力で子どもの安全を保障することや「夢おこし委員会」の取り組みなど、すぐにでも取り入れたいと思えるものが数多くあった。次に北海道からは、今日的な課題である「食」について提言された。食教育に係る教育課程整備や食物アレルギーへの対策等、ヘルスプロモーターとしての教頭の役割は大変に大きいものがあると感じた。最後に山形県の提言は、小中連携に係わるものであった。今話題の中ギャップについては、「コミュニケーション能力」を高める必要のあること、対人関係・生活習慣・学習等における不十分さが見逃せないことなど指摘された。

以上、紙面の関係でほんの一部だけの紹介ではあるが、とにかく収穫の多い大会だった。せつかく全国の皆さんと語り合えるのだからということで、真っ先に口火を切り「短く、まとまりと投げかける内容のある発言」をしようと意識し、少々肩に力が入ったかもしれない。たくさんの情報提供や示唆をいただいた全国の参加者と機会を与えてくださったご関係の皆様へ心より御礼を申し上げたい。最終日、童門冬二氏の講演で触れられた、「財政難の時こそ教育が大事である」と宣言し、学校創立に踏み切った上杉鷹山の高い志にはとても及ばないが、この学習成果を今後の東山教育研究に積極的に生かしていくことを決意し報告としたい。

(東山梨教頭会副会長 教文 雨宮政文)

関東甲信越地区教頭研究大会参加報告

11月9日(木)10日(金)の2日間にわたり、地元山梨県アイメッセ山梨を会場として、1300人を超える参加者により、本大会の研究主題「生きる力をはぐくむ 豊かな学校をめざして」のもと「豊かな心を持ちたくましく明日を拓く児童生徒の育成」をサブテーマに、第47回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会山梨大会及び第40回山梨県公立小中学校教頭会研究大会が開催されました。

分科会では、本研究大会としては初めての試みである多くの実践例を交換しあい討論を深めるために、「参加型」のグループ討議を主体とした分科会が取り入れられ、実践と理論の両面にわたって熱心な研究協議が行われました。

東山梨からは、2A分科会「子どもの発達に関する課題」(小学校)において、提言者として山梨市立牧丘第三小学校の今澤寛万呂教頭先生より、研究主題「児童・生徒の道徳的実践力育成をめざす教育のあり方と教頭のかかわり」として発表がされ、グループ討議では「家庭・地域・関係諸機関との連携などをどのようにつくっていくか」を討議の柱に①「小・中学校の連携について」②「家庭との連携について」③「地域・関係諸機関との連携について」④「道徳授業や道徳的体験活動について」活発な話し合いが行われました。

今大会には実行委員として参加させていただき、開会行事や閉会行事等、アトラクションでは、県外の先生方からも好評を得た、部活動の一つとして全校で取り組んでいる西浜中学校による「西浜中の双龍太鼓」、そして県教育委員会義務教育課課長の杉原 廣先生による指導講評を頂き、記念講演は「石橋湛山七歳のおしえ」と題して作家の江宮隆之氏による講演が行われました。そしてメインである研究会では「参加型」のグループ討議による分科会。課題もあったかと思いますが県教頭会の先生方の協力により滞りなく終了することができました。貴重な体験をさせていただいたことに感謝し報告とさせていただきます。

(学校運営研究部会 長谷川 清)